

芸術科

主任：山下 紀子

(1) 今年度の目標

- 1年：基本的な理論や基礎的な表現技術の定着を図り、自分の視野を広げていくとともに心豊かな生活の創造に芸術を生かせるような態度を育む。
- 2年：1年次に培った基礎的表現力の上にさらに創意工夫・応用して自己の表現能力を高めてレベルアップした幅広い表現活動ができるようにし、生活の中で芸術を楽しませる。

(2) 主な取り組みの計画

- ①中学校での学習内容の把握と復習をして、表現の基礎・基本となる理論や技術を的確に指導する。
- ②年度末の『学習成果発表会』に向けて、段階的な到達点を各自（グループ）で設定して計画的に取り組ませることで、自主的な計画性を育成するとともに、創る喜びと発表する達成感を味わわせる。
- ③個別指導に重点を置き、個性の把握と理解に努め、個々に合わせたきめ細かい指導を心がける。

(3) 授業アンケートの結果と分析

<音楽>

ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。基本的な奏法は、確実にレベルアップしていくが、創作や表現の工夫の活動が苦手な生徒が多い。学習発表会に向けての姿勢取り組みは前向きである。

<美術>

大半の生徒が熱心に取り組んでいる。粘りのある生徒が多く、制作時間内で個々の完成度がばらつくため、時間を調整する課題が必要である。

<書道>

授業については、ここ数年同様に概ね肯定的で好印象の回答がほとんどである。素直に取り組む生徒が増加したと思われるが、理解については、用語がむずかしく分かりづらさを感じている者も少しずつ増えているのが現状である。説明を工夫すれば乗り越えられるだろうと思われる。1年生の8割強は上達を意識できているので、さらに達成感を感じられるような指導を心がけたい。

(4) 今年度の成果と課題

<音楽>

学習成果発表会に向けて、前向きに集中して取り組むことができた。
技術的に差がついた生徒を個別に指導する工夫を考えたい。また、より早い段階で目標をきちんと設定し、本番でどのような演奏をしたいのかを意識させたい。

<美術>

絵の具を苦手とする生徒が年々増加しており、ポスター制作において自由な画材で描かせたところ、様々なイメージが展開された。来年度も画材をよく検討したい。

<書道>

今年度も、ある程度時間を制限して、集中させて課題に取り組ませた。手順を板書しておくとかかなり集中して取り組み、個々の進度が異なっても意識をして課題に取り組めた。
今年度は、1年生に前衛書に挑戦させた。文字として読めなくてもいいということで最初は躊躇していたが、自分で考えることの大切さに気付き、少し殻が壊れ始めた作品ができた。まだまだ課題は残るが、工夫することの楽しさを味わわせていきたい。